

牡丹枯る

染谷 秀雄

十年來大輪の花を咲かせていた牡丹が苔をもったまま枯れてしまった。年を越してからの二回の雪にも冬芽をしっかりと付けて順調に育っていたので、てっきり例年のように立派に咲くものと思い込んでいた。その二本の紅白の牡丹は郵便ポストの近いとこにあり、順調な苔の生育に咲く日を心待ちにしていた。三月に入ってから芽も余り膨らんでいる様子はなく何となくおかしい、小枝を折ってみるとポキリと枯れたような音、隣の白牡丹も同じように折ったところ全く同じで、両方とも枯れていることが判った。根切虫にやられた様子は無い。寒肥のやり過ぎなのであろうか。根が眠っている時に施す寒肥は緩効性があり休眠期から目覚める春に効き目を表すので、安心して撒いたが、やはり肥料が強すぎたのかもしれない。それしか原因が考えられない。長年見慣れた場所に牡丹がないのはいかにも寂しすぎるので、紅白の牡丹を買って同じ場所に植えた。順調に苔を膨らませ赤が四つほど次々と咲いた、四月十日頃のことだ。続いて白も苔が膨らんで来たので咲くのをたのしみにしていたがその後いつこうに苔が大きくならず、そのうち葉が増えてきてしまった。苔はゴールドエンウィークを過ぎても同じ大きさのまままで止まっている。全く不思議なことがあるものだ。

今年の白牡丹は望めそうもない。